音楽学部・大学院音学研究科における2020年度後期からの授業方針について (2020/9/10現在)

掲載日時点での各科授業実施方針をお知らせ致します。

※授業開始曜日・時間は、原則として「2020年度時間割」に記載されているとおりとなります。ただし、「遠隔授業(オンデマンド方式)」の場合、「授業担当教員から直接指示があった場合」を除きます。

※本授業実施方針は、コロナ感染状況に伴い適宜更新致します。新しい方針は決定次第、本ページによりお知らせ致します。

※追記:8/17「音楽学・楽理科」科目・実施内容を追加入力

※追記:8/31「音楽教科教育法Ⅱ」科目・授業実施形態を追加入力

※追記:9/10作曲科の一部科目を追記・変更

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
作曲	和声	講義	1:遠隔授業 Classroom	和声初級・中級・上級各クラス授業の説明をMeetで行う。隔週で、和声視奏を行う。	9月10日
作曲	専門基礎科目	講義	1:遠隔授業Classroom	通常通りの授業内容を実施	
作曲	作曲科専門科目	講義	1:遠隔授業Classroom	通常通りの授業内容を実施	
作曲	実技レッスン	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	現在行っている遠隔レッスンと、対面レッスンを組み合わせることを検討予定です。	
作曲	演奏審査と作品提出	実技試験	今後の状況を見て検討		
声楽科	<個人レッスン>(声楽実技など)	実技	2:対面授業	「歌唱を伴う授業のガイドライン」に則って対面授業を行う。学生の入構状況管理の観点から、場合によっては前期同様の遠隔授業も併用する。	
声楽科	<個人レッスン>(副科独唱(初級))	実技	1:遠隔授業	前期同様の遠隔授業を継続する。	
声楽科	<実演を伴わないグループ授業>(歌曲分析演習など)	講義	1:遠隔授業	前期同様の遠隔授業を継続する。	
声楽科	<実演を伴うグループ授業>(声楽演習/舞台語発音法/声楽特殊研究など)	実技+講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	授業内で実演を行う学生には「歌唱を伴う授業のガイドライン」に則って対面授業を行う。その他の履修学生は、自宅または構内に設けられた遠隔授業用教室から授業に参加、あるいはオンデマンドによる課題学習を行う。	
声楽科	<多人数授業>(合唱、副科合唱、声楽アンサンブルなど)	実技	1:遠隔授業	前期同様の遠隔授業を継続する。	
オペラ専攻	オペラ定期公演に関わる授業	実技	オペラ定期公演中止		
オペラ専攻	オペラ定期公演のための3年生の合唱稽古	実技	オペラ定期公演中止		
オペラ専攻	台本講読法、オペラ史等の講義系の授業	講義	1:遠隔授業	遠隔授業を継続(オンラインとオンデマンドの併用)を予定。	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
オペラ専攻	オペラ実習(歌唱と演技)の授業	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	オペラ専攻における歌唱を主とする実技、学部3年「オペラ実習I(ABC)」、学部4年「オペラ実習II(AB)」、大学院オペラ専攻「オペラ総合実習I(ハイライト)」、「オペラ総合実習II(修士演奏)」、「オペラ特殊研究BI、BII」、「声楽実習・楽曲分析演習I、II」を対面で行う予定。感染防止のためオペラ専攻の方針にのっとり、教員と学生全員で感染防止に努めることが条件となる。対面においては、人数を減らした形で行うため、対面授業をオンラインで履修学生に配信する。	
オペラ専攻	身体表現(バレエ、演技系)の授業	実技	1:遠隔授業	遠隔授業を継続(オンラインとオンデマンドの併用)を予定。	
ピアノ	専攻実技個人レッスン	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染予防策を実施した上で基本的には対面でのレッスンとする。希望者には遠隔で行う。	
ピアノ	室内楽レッスン	実技	室内楽ⅡⅢⅣ 室内楽実習(グループ)の項目を参照	室内楽ⅡⅢⅣ 室内楽実習(グループ)の項目を参照	
ピアノ	副科ピアノⅠ・Ⅱ	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	基本的には遠隔でのレッスンとする。教員が必要と認めた者へは感染予防策を実施した上で対面レッスンを行う。 8月中に副科ピアノ履修生への調査を行うので、ピアノ科から送られるメールに留意すること。 また対面レッスン受講可能者数は非常に限定されたものとなるので、遠隔レッスンの受講に際し引き続き各自でできる限りのことを準備しておくこと。	
ピアノ	伴奏法	講義及び演習	3:遠隔授業と対面授業の併用	対面では十分な感染予防策を実施の上、受講者を分割し、一回の授業における参加者を3名から6名程度とする。各回対面授業に参加しない学生は、対面授業を録音したものを聞いた上で課題を提出する。	
ピアノ	ピアノ音楽文研研究	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	メールと通話等によるオンラインでの講義。過去の論文に参照させて指導を行う必要があるとき等、対面での指導が必要な際は、希望者に対面授業を行う。 対面での授業は4人までの入室とする。	
ピアノ	器楽特殊研究	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染防止に努めながらの対面授業を予定しているが、状況が流動的なため、Classroomを通して、こまめに指示をする。対面授業を希望しない学生には別途課題を課す。	
ピアノ	器楽特殊研究	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染防止に努めながらの対面授業を予定しているが、状況が流動的なため、Classroomを通して、こまめに指示をする。対面授業を希望しない学生には別途課題を課す。	
ピアノ	器楽特殊研究	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染防止に努めながらの対面授業を予定しているが、状況が流動的なため、Classroomを通して、こまめに指示をする。対面授業を希望しない学生には別途課題を課す。	
オルガン	専攻実技	実技	2:対面授業	感染対策を十分に行い、対面授業	
オルガン	副科初級	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況によるが、人数を少なくしてのグループレッスンと、遠隔授業の併用	
オルガン	副科中級	実技	2:対面授業	感染対策を十分に行い、対面授業	
オルガン	即興実技	実技	2:対面授業	感染対策を十分に行い、対面授業	
オルガン	様式研究	講義	1:遠隔授業		

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
オルガン	オルガン概論	講義	1:遠隔授業		
オルガン	大学院器楽特殊研究	講義	1:遠隔授業		
古楽	専攻実技(個人レッスン)	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で少人数&交代制による対面授業を実施する。希望する者には遠隔での対応も考える。	
古楽	副科・専攻外実技(個人、グループレッスン)	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で少人数&交代制による対面授業を、希望する者には少なくとも月に1~2回は実施する。それ以外は遠隔とする。	
古楽	古楽アンサンブルⅠⅡⅢ	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で、毎週1組(5人以内の小アンサンブル)が登校し、レッスンの模様を他の学生のためにオンライン中継する。また、課題学習も併用する。	
古楽	大学院の古楽特殊研究ⅠⅡ	講義・実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で、毎週1組(5人以内の小アンサンブル)が登校し、レッスンの模様を他の学生のためにオンライン中継する。また、課題学習も併用する。	
古楽	古楽文献研究、大学院古楽分析演習	講義	1:遠隔授業		
古楽	古典舞踏ⅠⅡ	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	感染拡大状況を見ながら対面授業が可能か直前に判断する。状況によってはすべて遠隔による課題学習とする。	
弦楽科	専攻実技個人レッスン	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	対面レッスンを基本とするが、世の中の感染状況や、教員と学生のニーズに合わせて遠隔レッスンへ柔軟に対応を変更できるものとする。	
弦楽科	副科Va初級、中級Vaレッスン	実技		対面レッスンを基本とするが、世の中の感染状況や、教員と学生のニーズに合わせて遠隔レッスンへ柔軟に対応を変更できるものとする。	
弦楽科	副科Vn初級	実技		状況により遠隔授業と対面授業を併用する。対面授業を実施する場合は感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で少人数&交代制による対面授業を実施する。	
弦楽科	副科Vc初級	実技		状況により遠隔授業と対面授業を併用する。対面授業を実施する場合は感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で一対一の個人レッスン(20分)を実施する。	
弦楽科	副科Cb初級	実技		対面授業と遠隔授業と併用し学生のニーズに合わせて遠隔授業での対応もすることとする。対面授業を実施する場合は感染予防策(ソーシャルディスタンス・換気・マスク着用など)を実施した上で少人数&交代制による対面授業を実施する。楽器を使い回すことになるので、その度に消毒等の対応を徹底する。	
弦楽科	器楽特殊研究	講義		遠隔授業を行う。	
弦楽科	弦楽合奏	演習		世の中の感染状況を見ながら対面授業が行えるかどうか慎重に判断するものとする。もし対面授業が行える場合は予防対策を実施しながら弦楽合奏履修者を複数のグループに分けて実習・指導を行う。感染拡大への懸念が大きく、対面での実習ができない場合は遠隔で各教員が担当週の課題を与える。(レポート、ディスカッションなど)	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
管打楽	管打合奏 1	実技	3 : 遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】 マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 30分に一度のペースでホールの扉を全て開放して換気をする。※準備可能ならサーキュレーター等を複数台使用。 総勢20名から40名で実施していますが、パート別に時間を分けて実施する。(各5~8名) 学生間を1m~2m程度あけて実施。 (学生が多く集まるのを防ぐため、パート練習、分奏、合奏を半分に分ける等の対策も検討中)</p> <p>【入構禁止が継続の場合】 遠隔授業を想定。オンラインは不可能なため、レポート課題。 曲を決めて、スコア、パート譜を配布、それに対する考察等を課題としてレポート提出という流れになると考えています。 途中で合奏形態(対面授業)が行えれば、移行していく。</p>	
管打楽	吹奏楽講座 2・3	実技	3 : 遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】 マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 30分に一度のペースでホールの扉を全て開放して換気をする。※準備可能ならサーキュレーター等を複数台使用。 ホールを全体を使って、学生間を1m~2m程度離して、木管分奏(30名位)、時間を分けて、金管分奏&打楽器(30名程度)と実施。 (学生が多く集まるのを防ぐため、パート練習、分奏、合奏を半分に分ける等の対策も検討中)</p> <p>【入構禁止が継続の場合】 課題を出してレポートの提出や、GoogleClassroom等を使用しての授業を検討。</p>	
管楽器	オーケストラ・スタディ講座	実技	3 : 遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】 マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 30分に一度のペースでホールの扉を全て開放して換気をする。※準備可能ならサーキュレーター等を複数台使用。 オーケストラ・スタディは、人数が少ないので(10~30名程度)、学生間を1m~2m程度離して実施する。 (学生が多く集まるのを防ぐため、パート練習、分奏、合奏を半分に分ける等の対策も検討中)</p> <p>【入構禁止が継続の場合】 GoogleClassroomを使用してのオンライン授業、レポート課題の提出などを行う。</p>	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
管打楽	ジャズ・コンテンポラリー・アンサンブル講座	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】(できる限り対面優先とする) マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 30分に一度のペースで出入口を開放して換気をする。※準備可能ならサーキュレーターを複数台使用。 この講座も、人数が少ないので(30名程度)学生間を1m~2m程度離して実施する。状況が落ち着くまで楽器演奏での実践ではなく、コード及びコード進行を勉強する講義を行なう可能性も考えられる。</p> <p>【入構禁止が継続の場合】 GoogleClassroom等を使用し、遠隔授業でアドリブ等についての実技授業を行う。 演奏の録音を送付させてコメントを返す等の指導、それも難しい場合は実技は諦めて、コード理論などの授業にしてレポート課題にする等を検討。</p>	
管打楽	専門分野楽器実習1・2・3・4	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】 マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 対面レッスンとオンラインレッスンを併用し、対面レッスンの回数を通常時の半分にすることを検討する。 対面レッスンを行う場合はレッスン毎、加えて30分に一度のペースで、扉・窓を全て開放して換気をする。 学生と教官の間を1m~2m程度離して実施する。 フィルムシート、譜面台、椅子、ドアノブなど、レッスンで使用したもの、触れたものはその都度消毒する。</p> <p>【入構禁止が継続の場合】 Skype、Zoom、LINE、YouTube、GoogleClassroom等を使用して遠隔授業を実施。</p>	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
管打楽	器楽特殊研究(6) ※北川先生	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】 密集防止のため、学生間に2m程度の距離を開けるよう着席させる。 密閉防止のため、教室の出入り口及び窓を解放した状態で授業を行う。 密接防止のため、マスク着用を指示する。</p> <p>【入構禁止が継続の場合】 資料や課題をClassroomにプールしておき、リフレクションペーパー、およびレポートの提出とそれに対するフィードバックをもって遠隔での授業を行う。 資料や課題の提示についてはデータ量にも考慮し、高音質高画質にこだわって学生の通信量を必要以上に増大させないことを留意する。 YouTube等のリンクも活用する。</p> <p>個別の学生の対応にはメール、メッセージ、LINE等も適宜使用。 HangoutMeetについて、学生のヒアリングを行いZOOMの利用も検討。 安全な登校が可能と判断できる状況になれば対面授業を適宜行います。または対面授業と遠隔授業の併用も考慮。</p> <p>評価は課題提出をもって行うことを原則とし、オンライン環境によって不公平が生じないように配慮する。</p>	
管打楽	器楽特殊研究(7) ※中村先生	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】 前期に配布している「器楽特殊研究(7)授業の新型コロナウイルスの対策について」にしたがって授業を実施。入室・退室時の消毒、マスクの着用、学生同士の間隔を2m以上あける、座学時の出入口の開放、飛沫防止のため私語を控える等、授業に参加するための感染防止対策の周知を徹底する。</p> <p>【入構禁止が継続となった場合】 メールやLINE、GoogleClassroomを使用し、学生と連絡をとりながらの個別の遠隔授業を検討。 GoogleClassroomにて資料・動画の配布。</p>	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
管打楽	即興創造講座	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が行える場合】</p> <p>マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 30分に一度のペースでホールの扉を全て開放して換気をする。※準備可能ならサーキュレーター等を複数台使用。 即興創造講座は、人数が少ないので(10~30名程度)、学生間を1m程度離して実施する。 もしくは、曲目の分析&解釈のレポート課題による授業実施の可能性はある。 暫定的にいくつかのグループに分けての実施も検討中。仮に30名の履修生がいた場合、5人×6組を作り、1組15分ずつで(もしくは2組30分)、組毎に入れ替える。都度換気も行います。 本来は他の組の演奏を聴き、注意事項を聞くことも大切なのですが、その分は演奏を録音させ、自宅で分析し、課題をメール等で送らせる等に対応。</p> <p>【入構禁止が継続の場合】</p> <p>HangoutMeet、ZOOM、Googleclassroomを使用し、遠隔授業を行う。 音が出せない学生への対応は、特に即興・創造講座の創造に照準を合わせ、世の中にある文化、芸術等からの発見、アイディアの報告をオンライン上で発表させる予定。 通信環境が伴わない学生は、個別に実演を録音したものを郵送させ、コメントして対応する。</p>	
管打楽	副科実技	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	<p>【対面授業が可能な場合】</p> <p>マスクを常時着用。管楽器学生は演奏時以外はマスクを着用。 対面レッスンとオンラインレッスンを併用し、対面レッスンの回数を通常時の半分にすることを検討する。 対面レッスンを行う場合はレッスン毎、加えて30分に一度のペースで、扉・窓を全て開放して換気をする。 学生と教官の間を1m~2m程度離して実施する。 フィルムシート、譜面台、椅子、ドアノブなど、レッスンで使用したもの、触れたものはその都度消毒する。</p> <p>【入構禁止が継続の場合】</p> <p>オンラインの場合は、GoogleClassroom、Skype、ZOOM等を使用しての遠隔授業の実施、レポート課題の提出等を検討する。</p>	
室内楽	室内楽 I	演習	管・打楽:2.対面授業 弦楽:1.遠隔授業	<p>木管・金管合奏:感染予防策(学生間、教員との距離、マスク着用、消毒、換気等)を実施した上で、編成を2つに分けて、実演と聴講を交互に行う。 打楽器アンサンブル:感染予防策を実施した上で、少人数にて実施する(指導教員の指示に従う)。 弦:演奏する学生と教員のみが登校し、感染予防策を実施した上で室内楽レッスンを収録、オンデマンド動画として配信する。</p>	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
室内楽	室内楽ⅡⅢⅣ 室内楽実習(グループ)	実技	2:対面授業	感染予防策(学生間、教員との距離、マスク着用、消毒、換気等)の実施、十分な広さの部屋を確保した上で、レッスン時間をリハーサル、レッスン、換気・消毒の三つの部分に分け、全て教員同室のもとで行う。各グループのレッスン回数に上限を設ける。学生のみによるリハーサルは一切行わないこととする。グループ内に対面レッスンを希望しない学生がいる場合は適宜対応する。また、今年度室内楽試験および室内楽定期演奏会は中止とする。感染状況などによっては前期と同様の遠隔授業となる場合もあるので、classroomからの情報に留意すること。	
室内楽	室内楽実習(専攻)	実技	2:対面授業	感染予防策(学生間、教官との距離、マスク着用、消毒、換気等)を実施した上で、指導教官、共演する非常勤講師、学生の三者による対面のレッスン、ディスカッションおよび非常勤講師と学生によるリハーサル、ディスカッションを行う。	
室内楽	室内楽特殊研究	演習	1遠隔授業	演奏する学生と教員のみが登校し、感染予防策(学生間、教官との距離、マスク着用、消毒、換気等)を実施した上で室内楽レッスンを収録、オンデマンド動画として配信する。	
指揮	指揮実技	実技	2:対面授業	7月からのレッスン同様、それぞれのクラスに分かれてのグループレッスンを実施する。感染防止には、指揮科レッスンマニュアルに基づき、各担当教員及び助手が細かな管理・指導をしていくが、学生にも指揮科入構マニュアルを遵守させ、またGoogle Formsの入力を徹底させて、入構の管理も併せて行っていく。	
指揮	副科指揮法Ⅰ	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	基本的には、遠隔授業を予定している。今後、都内や全国の感染状況などを見ながら、感染防止に十分気をつけ、対面での授業も組み合わせていく。(Google Classroomで指示をしていく)	
	副科指揮法Ⅱ・Ⅲ			対面授業と遠隔授業を組み合わせたことを検討中。6ホールを使用した場合は、感染防止に十分気をつけ、指導・管理を徹底していく。(Google Classroomで指示をしていく) 東京都内や国内の感染状況や、大学からの方針次第では、前期に引き続き、遠隔授業を行うこともある。	
オーケストラ	オーケストラ(学生)	実技	検討中	東京都内や国内の感染状況を見ながら今後、慎重に判断する。(Google Classroomで指示) 今のところは、前期同様にレポートなどの指示をしていく予定であるが、今後、WEBでの講義も織り交ぜていくことも検討中。	
オーケストラ	オーケストラ実習(大学院)	実技	検討中	今後、対面での授業が行えるようになった場合は、予防対策を実施しながら、参加人数や編成を小規模にして行うようにしていく。	
邦楽科	和楽器実技	実技	1:遠隔授業と対面授業(囃子) 2:対面授業(生田)	* 邦楽囃子…グループ分けをしての対面授業と遠隔授業を併用する。状況によっては遠隔授業のみにすることもある。* 生田…楽器の貸出ができないため、10月2日の初回から対面授業を予定している。履修生同士の間隔を十分にとり、30分毎に換気を行う。マスク着用必須。授業前後は手洗いを徹底。	
長唄	実習	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	
三味線	実習	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
日本舞踊	実習	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	十分な感染対策をした上で、H415での対面授業と遠隔授業を併用する。	
山田流箏曲	実習	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	
生田流箏曲	実習	実技	2:対面授業	マスク着用、2m以上離れる、ビニールシートで先生と学生の間を仕切る、レッスン毎に必ず換気を行う。	
能楽囃子	実習	実技	2:対面授業	前期と同じく、感染拡大防止のための対応を順守して実施する	
能楽	実習	実技	2:対面授業	前期と同じく、感染拡大防止のための対応を順守して実施する	
邦楽囃子	実習	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	
尺八	専攻実技(本科生レッスン)	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	
尺八	副科レッスン	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	
雅楽	実習	実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	状況を見て遠隔授業と対面授業を併用する。	
音楽学・楽理	楽書講読(仏)	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	西洋音楽史	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	現時点において、講義はzoomで行い、可能であれば期末試験のみ対面実施を検討する。	8月17日
音楽学・楽理	音楽社会学	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	美学	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	作曲家・作品研究C	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)	西川尚生『作曲家 人と作品:モーツァルト』音楽之友社、2005年を教科書として使用しますので、必ず授業開始時までに購入しておいてください。	8月17日

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
音楽学・楽理	記譜法	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽学特殊研究(大学院・民族音楽学)	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	楽器学	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	西洋古楽演奏1	講義、実技	2:対面授業	履修生3名(教員を含み4名)で十分な広さを持つ教室(5-315)で、十分な換気と消毒、体温測定、マスク(教員はマスクとフェイスガード)使用など、できる限りの対策を取っております。消毒は授業前と後に楽器周辺、ドアノブ、椅子、机など、そして学生と教員の手に行なっています。状況によってはすぐにオンデマンドに戻ることもできます。	8月17日
音楽学・楽理	音楽美学演習II	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)	遠隔授業(リアルタイム)に参加できない学生には、オンデマンド資料で当該回の学習ができるように配慮いたします。	8月17日
音楽学・楽理	楽書講読(露)	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)	Zoomによる実施	8月17日
音楽学・楽理	楽書講読(英語)	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽理論概説	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	楽書講読(羅語)	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	日本音楽史1演習II	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	音楽学特論II-1/音楽学特殊研究II-1	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	ガムラン演奏	実技	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
音楽学・楽理	音楽民族学演習	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽美学概説	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)	Classroom+Zoom	8月17日
音楽学・楽理	日本音楽史 I 講義	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽民族学概説	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽学特殊研究(日本) II	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	日本音楽史概説	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	楽書講読(日)	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	大学院「音楽学演習」	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽学演習(学部、大学院とも)	演習	3:遠隔授業と対面授業の併用		8月17日
音楽学・楽理	大学院「音楽研究基礎」	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用		8月17日
音楽学・楽理	日本東洋音楽史	講義	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	初級演習6	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
音楽学・楽理	東洋音楽史概説	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	東洋音楽史講義Ⅱ	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	[院] 音楽学演習(1)	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	音楽学実習(学部、院とも)	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	東洋音楽史演習2	演習	1:遠隔授業 オンデマンド(録画)		8月17日
音楽学・楽理	初級演習(3)	演習	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
音楽学・楽理	西洋音楽理論史演習	演習	3:遠隔授業と対面授業の併用		8月17日
音楽学・楽理	音楽分析論	講義	1:遠隔授業 リアルタイム(生放送)		8月17日
教職	音楽教科教育法Ⅰ	講義	1:遠隔授業	リアルタイムとオンデマンドの併用	
教職	音楽教科教育法Ⅱ(水曜日/金曜日)	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用		8月31日
教職	生徒指導の理論と方法	講義	1:遠隔授業	オンデマンド	
教職	道德教育の理論と指導法	講義	1:遠隔授業	オンデマンド	
音楽教育	ゼミ	演習	1:遠隔授業		
ソルフェージュ	ソルフェージュ	実技・講義	1:遠隔授業	基本的に遠隔授業となりますが、「ソルフェージュは実技である」という当科の授業方針を実現するため、情勢にあわせ一部対面授業にする方法を模索中です。	
言語芸術	【対面】外国語科目・教養科目全般	講義	1:遠隔授業	前期に引き続き、Google Classroomなどを用いたオンデマンド形式のオンライン授業を基本とする。	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
言語芸術	【対面】外国語科目(英語以外)初級(週二回)	講義	1:遠隔授業	前期に引き続き、Google Classroomなどを用いたオンデマンド形式のオンライン授業を基本とする。	
言語芸術	【対面】外国語科目(英語以外)中級・上級(週一回)	講義	1:遠隔授業	前期に引き続き、Google Classroomなどを用いたオンデマンド形式のオンライン授業を基本とする。	
言語芸術	【オンライン】外国語科目	講義	1:遠隔授業	前期に引き続き、Google Classroomなどを用いたオンデマンド形式のオンライン授業を基本とする。	
言語芸術	【オンライン】演習・講義	演習 講義	1:遠隔授業	前期に引き続き、Google Classroomなどを用いたオンデマンド形式のオンライン授業を基本とする。	
音環	音環概説1～3	講義	3:遠隔授業と対面授業の併用	遠隔授業を原則としつつも、どうしても必要と認められる場合には、対策を行った上で対面授業を行う。	
音楽環境創造科	「音楽基礎演習(初級・中級)」 「ソルフェージュ(音楽基礎演習A・B)」	実技	検討中	ソルフェージュ科の対応に準じる。	
音楽環境創造科	「声楽実技演習」	実技	検討中	声楽科の対応に準じる。	
音環	録音技法	講義・実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	対策を行った上で遠隔授業と対面授業を併用して行う。	
音環	プロジェクト スタディスキル	講義・実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	対策を行った上で遠隔授業と対面授業を併用して行う。	
音環	(その他、特記のない科目)	講義・実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	遠隔授業を原則としつつも、どうしても必要と認められる場合には、対策を行った上で対面授業を行う。	
演奏芸術センター	劇場技術論	講義	1:遠隔授業	オンライン(Zoom)にて実施する。	
演奏芸術センター	劇場芸術論	実技	2:対面授業	前期は休講としたが、後期より感染予防対策を実施した上で再開する。	
演奏芸術センター COI	「障がいとアーツ」研究	講義、実習	1:遠隔授業	オンライン(Zoom)にて実施する。	
演奏芸術センター	社会哲学特講	講義	1:遠隔授業	オンライン(Zoom)にて実施する。 講義+映像+パワーポイント 後期は取り扱う内容が異なるが、既に前期において、遠隔授業を実施しつつ通信トラブルや見逃しに対する対応として、後日視聴可能な体制を取ること、ほぼ問題なく授業を終えることができ、後期もその方向に進め、万一通信環境などで不具合を抱える学生などがいた場合にも、指定図書の見直し、レポートなどを組み合わせて配慮し、すべての学生の講義内容の充足を心掛けたい。	
演奏芸術センター	AVメディア	講義、実技	2:対面授業	映像編集実習に関しては感染防止策をとった上でAMCにて行う。映像制作実習に関しては学生同士のディスカッション、撮影機材が必要となるため、感染防止策をとった上で音響研究室にて行う。	

授業開設科・専攻	授業名	授業形態	後期授業実施形態(予定) 1:遠隔授業 2:対面授業 3:遠隔授業と対面授業の併用	授業の実施方針(内容)	追加更新日
演奏藝術センター	サウンド・レコーディング基礎演習	講義、実技	3:遠隔授業と対面授業の併用	事前に、Classroomに資料をアップしておき、それを元に、授業当日は、グループに分けて、隔週でスタジオにて実習を行う。三密には十分配慮する。機器の操作等には手袋の使用、アルコール消毒等を心がけ十分配慮する。	
演奏藝術センター	舞台芸術広報概論(後期)	講義	1:遠隔授業	本授業は、もともと「講義(座学)と簡単なワークショップ(WS)の併用を企図しており、またWSの内容もキャッチコピー、プランニング、文章作成等のため、座学～課題提示～課題提出という流れを採用することにより、基本的にはオンラインで十分に対応が可能であると考え。ただし履修者数を考慮して「感染拡大の予防対策」が十分に取れると判断され、かつ学生の登校が可能な場合は、終盤に限り対面授業の可能性を残したい。 ※対面授業の可能性を模索するのは、WSにおける発表などで、互いに感想や意見を述べ合える場を出れば設けたいという理由による。なお通信環境の不具合や見逃し等により、リアルタイム視聴が叶わないケースに対しては、期間限定のアーカイブ保存などで対応し、課題提出との組み合わせなどで、すべての学生に講義内容の充足が図れるよう心掛けたい。	
言語・音声トレーニングセンター	外国語科目	講義	1:遠隔授業	前期と同じ(Google Classroom, Google Meet(またはZoom)を使用)	